

職歴編年

年	年号	所属	業務	課題	内容	
1970	昭和46年	教育委員会 4 社会教育課	青少年教育  成人教育係   家庭教育  社会教育	子ども会 成人式  成人教育   研究・研修  会議等	山中湖サマーキャンプ 青年へのメッセージ  菊田公民館支援 学級・講座・教室の開設 高齢者学級計画 環境教育の提案 文化財保全 郷土史講座(歴史資料の発掘) 視聴覚教育の研究 幼児家庭教育学級  PTA家庭教育学級(PTA活動支援)  研修会 鹿野山少年自然の家 富士吉田青年の家  教育委員会議 社会教育委員会 公民館運営審議会スタート 文化財審議会	子ども会育成会、山中湖→富士吉田への移転 新しい市民へ、郷土意識を育む、市勢要覧づくり、袖ヶ浦体育館の新設の為、3月に実施、1500名の成人  5月に開館、「公民館事業・活動」の樹立へ 婦人学級、成人講座、女性教養教室、他イベント企画、サークル育成 高齢者「寿学級」の開講・支援。→県公連で報告、高齢者親睦活動の学習化を図る 京葉道路騒音・大気汚染、環境破壊 ごみ対策→環境保全教育(神道、鎌田等が実践) 遺物、遺跡保全(藤崎堀込貝塚、八剣台・鷺沼古墳)、民具・歴史資料の発掘へ(鷺沼・鈴木家、実籾・斎藤家、鴛田家、他) 郷土の歴史概要まとめ→副読本づくり、郷土史講座開講→市史編纂事業への準備 AV機器の活用、視聴覚教育振興→視聴覚センター構想→教育研究所・教育センターへ 3歳児のいる家庭教育学級(前期・後期)→菊田職員の産休代替で応援 及び幼稚園の家庭教育学級の開設(つくし、杉の子、仲よし、東習志野) 小学校7校(4→全部達成) 中学校4校(1→全部達成) 県・国社研主催の社会教育研修会、研究大会に参加 施設構想(セカンド・スクール)、自然教育プログラム、カリキュラム、教材研究→教育研究所 活動プログラムの研究  社会教育事業の報告、資料作成等 公民館構想(中学校区→小学校区) 市民会館の公民館化(認可申請) 郷土資料館構想、市史編纂事業構想
1971	昭和47年	市長部局出向 4 企画室広報課	広報係	取材・記事	特集記事・お知らせ記事  編集会議、企画会議、取材、編集、校正、発行、配布(新聞店) その他、チラシ、広報誌の編集 特集記事:施政方針、年度計画事業、予算・決算報告 施策事業の解説、所管課事業の紹介、お知らせ記事、コラム、習志野風土記 ・一中跡地、津田沼駅南口開発→音楽文化の殿堂へ文化ホール構想 ・習志野の教育 社会教育構想の発表(公民館活動と市外施設) ・習志野の幼児教育樹立へ→教育研究所 ・幼小関連ヘッドスタートプラン、幼保関連研究、向中野自由学園→モンテッソリー教育→教育研究所 ・京葉港二次埋立て開発(湾岸道路、料金所、ヤードの移設)、公害企業の排除、騒音対策、緩衝緑地帯(公園・緑地)整備 (土地利用と、総合福祉センター構想、都市再開発用地、干潟保全→観察センター)	
1976	昭和50年	4 福祉部保育課	措置費、経理 入所措置事務  保育所施設管理	保育行政	「保育準備」改訂(人件費改定、年末調整、決算時)に伴う所要額調書作成の手続き→「保育事業費支弁」事務 保育料徴収、予算、経理事務→のちの56年ころパソコン化、導入へのソフト開発へ 時間外保育料徴収に対し、行政不服審査請求を受ける 本大久保第二開所(3歳未満児)、藤崎保育所再建工事(0~5歳児)、袖ヶ浦第二(5歳児)遊戯室設置 菊田第二保育所設置(3歳未満児)→公社資金立替 秋津保育所設置→国庫補助→一五省協定により補助枠獲得 (埋立地の措置児童数の発生予測から秋津、香澄地区には2施設(定員120)設置を協議)、用地確保。 秋津保育所の設計に当たっては、所長会・主任会との研究・協議。保育プランの研究 オープンエディケーション・幼児教育法(モンテッソリ法、教材、備品等を導入)研究を進め、幼保関連の実践力を研修(指導主事)	
1979	昭和53年	4 福祉部社会課		社会福祉	社会福祉一般  民生児童委員の改選 母子福祉推進委員の改選 社会福祉協議会(社会福祉法人)、日赤奉仕団等団体の指導、災害見舞金等事業指導 児童手当、児童扶養手当、高額療養費申請支援 母子福祉相談 軍人恩給事務	
1981	昭和55年	4 都市部用地課  教育委員会 4 施設課		用地交渉	県に誘致された高校を誘致、用地交渉、誘致事務(特命) 実籾高校誘致、すでに津田沼高校は整備中。 馬頭観音移設、東電塔移設、代替地周旋、地元地権者との調整 県の施設建設課と調整 県立高校誘致事務の残務処理 ・「教育施設基本調査」(5月)の施設台帳の調製・報告	

1982	昭和56年	7 袖ヶ浦公民館		公民館事業の樹立	「社会教育について」の答申 生涯教育の樹立 家庭・学校・社会の連携	・施設の運営管理 ・職員の事業指導・研修 ・高齢者学級の改善→各館に主旨報告→県公連で報告 (運営役員制度を設け、組織の自主運営化、クラブ活動の自主運営を奨励 学習プログラムの季節(期)課題化、学習内容づくり→相談員の協力(承り学習から実践・実技学習へ) 学習ジャンルの拡大へ→クラブ化へ 寿演芸団のプロデュース(シナリオ作成、演技指導、舞台づくり→夏休み学習→寿まつり「乃木大将」「義経」「大正ロマン」 他にコーラス、染色、陶芸、木目込み、絵画、園芸、ゲートボール、...。 各館合同の「市民大学講座」構想へ 公民館サークル連絡協議会を設け→文化祭実施、チャリティーバザー、→文化協会に参入 市史編集協力事業「古文書解説講座」の開催
1987	昭和61年	民生経済部 4 商工振興課		振興事業	商店街振興 都市再開発用地進出の指導 商工会議所 商工・農業祭→ 中小業者への資金融資 消費生活相談	商店街の活性化対策(街灯・道路整備、改修) 住工混在の解消のため、都市再開発用地への移転を斡旋 商工会→商工会議所へ(経営の指導へ) 産業まつりへ→のちの市民まつり つなぎ資金融資、利子補給融資 消費生活研究会(危険商品、取引の摘発→消費生活相談員
1989	昭和63年	教育委員会 4 習志野高等学校		学校事務	施設、運営管理	校舎施設・職員厚生、給与、学事事務、団費事務協力 プラスバンド部の音楽室設置、定時制食堂設置 第二体育館改修工事 商業科コンピュータ室設置、専任職員確保 職員給与事務→パソコン処理化 普通課・商業科を専科(英語科、音楽化、情報化、体育科)の専科構想 甲子園出場支援(春選抜、夏(県大会準決) 選抜事務のパソコン化(選抜試験の整理、判定のシステム開発、)←専任教諭(数学科、簿記)
1991	平成2年	市役所総務部 4 契約管財課		契約事務 公共施設台帳 庁舎管理 市財務規則の改正 習志野劇場跡地 旧問題処理 庁内電話の改善、直通化	業者選定、契約 公共地研にシステム開発を依頼 第二庁舎分室(千葉銀から移管) 第三庁舎分室建設 機構改革による課の移転調整 借地権に係る法定協議 過去の財産移転に伴う旧問題処理	業者・事業所の届出書類、諸審査等 公有財産台帳づくり(土地台帳) 庁舎手狭により分散、分室化 システム導入に際し、法令整備を図った 法定決着 旧区画整理、相続問題から発生、判明 PBX機器導入
1994	平成5年	教育委員会 4 大久保公民館		生涯学習振興法	「県老大一市老大」→市民大学へ 生涯学習振興策として 「習志野市地区学習圏会議」事業の設	→高齢者活動の実態調査実施 →市民カレッジとしての運営、事業についてシンポジウム、報告 「答申」をうけて、行政の生涯学習化へ →大判「公民館」に活動についての報告、寄稿 地域住民による会議と学習のコラボ、事業活動の企画、運営 ・図書館貸出システムのコンピュータ化 ・市民カレッジ構想 ・市民ボランティア活動の提案 ・他の公民館への波及へ、それぞれのフォーラム形成
1995	平成6年	7 袖ヶ浦公民館			袖ヶ浦地区学習圏会議設置、及び活動 ・「袖ヶ浦入居30年の記録」編集に着手 ・あわせて、活動記録「こんにちは袖ヶ浦公民館だより」発行/月 ・各館の学習圏活動のHP作成(私家版) 「学習圏会議連絡協議会」設置	大久保公民館から袖ヶ浦公民館へ異動 住民への原稿依頼から、原稿整理、編集、印刷、製本(業者)、発行・配布、資金調達 ・各館の学習圏活動をダイジェスト、それぞれのキャッチフレーズを公開、行政の協力得られず (大久保ネットワーク、谷津ローズフォーラム、みはな知恵の和、...、 今後の活動についての協議
1999	平成10年	4 実花公民館			・点字作業室設置、パソコン、点字プリンター設置(寄付) ・実花サークル連絡協議会設置→文化祭、チャリティーバザー実施 ・地域音楽会(サマコン)実施(実行委員会方式)で	

2000	平成12年	市役所企画調整部 4 企画調整課			地方分権 PFI事業研究 市内循環バス試行研究 庁内LANの設置	地方分権推進→地方への権限移譲から、財源確保、財政の健全化→公会計改革へ だが、(行政改革→財政健全化路線へ) 国土交通省?の講習会に参加。(千葉市の事例報告があったが理解できなかった) 市案では、費用対効果が望めず、委託化による新たな民間事業として、再検討(京成は乗り気だった) 財務システムとパソコンの導入、パソコン講習会
2001	平成13年	4 市民課			窓口改善、住基ネット導入	日立情報KK開発、国の基準に合致した。新規開発の予算計上だったが、本市では、既存のシステムで可能だった
2002	平成14年	環境部 4 谷津干潟自然観察センター	・環境保全 ・国際交流 ・環境教育 ・持続可能性		干潟の保全、環境悪化対策、 湿地交流、フライウエーネットワーク交流 プリスベン市との交流、アジア、シギ・チドリのフライウエーネットワーク 学校教育と連携し、環境教育のプログラムづくり(谷津南、向山、袖西)、他、施設見学 野鳥・水鳥等、底生生物等、野生生物保護、環境保持、生物の実態、観察記録、冊子、書籍の公表 観光地化等の提案に際し、 市長への手紙、苦情処理事務のシステ	砂質化、アオサ対策→湿地環境保持、悪臭対策 →民間委託化の指示が出たが、同意できなかった データベース化、システムの構築
2003	平成15年	10 まちづくり推進、すぐ聞く課				
2004	平成16年	教育委員会 4 新習志野図書館			複合施設の利点を生かし、公民館との連携事業を推進、読み聞かせ、講演会、読書会推進	
2005	平成17年	4 東習志野図書館・東習志野コミセン運営委員			コミセンの指定管理者委託(地区町会等)	
2006	平成18年	4 谷津図書館・谷津コミセン運営委員			図書館の指定管理者委託の研究 ・定型化された窓口業務の委託化、本来業務の確立→ 委託化されたが図書館事業の実現は、大久保の施設再生にて ・図書館システムの改定→富士通、丸善システムがベターだった →NEC従来システムのバージョンアップにより、22年TRCへの委託化 ・図書館の本来業務とは ・読書推進 ・調べ学習 ・レファレンスサービス ・郷土資料の充実、保存	
2007	平成19年	3 退職				→財務情報の改善→公会計改革研究協力→ ⇒公会計改革推進→PSRI